

<http://www.jkcf.or.jp>

The Japan-Korea Cultural Foundation

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目12番1号 虎ノ門ワイコービル3F

TEL:03-5472-4323 FAX:03-5472-4326

第3期日韓文化交流会議 第2回全体会議・公開シンポジウム 「日韓文化交流の新潮流」

日韓文化交流会議は、3月10、11日の両日、ソウルで「第2回全体会議」と公開シンポジウム「日韓文化交流の新潮流」を開催しました。



全体会議では、「国民的レベルの文化交流の拡大」というテーマの下、来年春に両国政府に提出予定の提言書作成に向けて、双方の委員がそれぞれの専門の立場からの多様な意見の交換を行いました。

また、シンポジウムにおいては、両国内の「韓流」「日流」現象など、相手国の大衆文化の受容が進んでいる現状を踏まえ、今後の展開が期待される「新たな段階の日韓文化交流」について、委員と外部の研究者が報告・議論を行いました(シンポジウム概要は次ページ)。

シンポジウムの合間には、山村浩二委員と金亨駿委員が用意した両国のアニメーション専攻の大学生の共同制作作品や、

これまで日韓間で共同制作された映画作品を紹介する映像の上映などが行われました。また、シンポジウムの終了後には、倉本裕基委員(ピアノ)と南宮演委員(ドラム)による共同演奏が行われ、会場から大きな喝采を浴びました。



《日程》

3月10日(木)	3月11日(木)
第2回全体会議 16:00 ~ 18:00 開会挨拶・基調講演	10:00 ~ 12:00 自由討論 シンポジウム 13:30 ~ 16:30 シンポジウム 16:40 ~ 17:00 日韓共同演奏

第3期日韓文化交流会議メンバー

日本側(委員長以外は50音順、敬称略)

委員長	川口 清史	学校法人立命館総長・立命館大学長
	有川 節夫	九州大学総長
	市川 森一	作家、脚本家
	小倉 紀蔵	京都大学准教授
	川淵 三郎	日本サッカー協会名誉会長
	木村 典子	日韓舞台芸術コーディネーター
	倉本 裕基	作曲家、ピアニスト
	小針 進	静岡県立大学教授
	辻原 登	作家、東海大学教授
	寺脇 研	映画評論家、 京都造形芸術大学教授
	山村 浩二	アニメーション作家、 東京藝術大学教授
事務局長	内田 富夫	日韓文化交流基金理事長

韓国側(委員長以外は韓国語順、敬称略)

委員長	鄭 求 宗	東西大学校国際学部教授 兼日本研究センター所長
	鞠 守 鎬	ディディ舞踏団団長
	金 亨 駿	ダインフィルム代表
	南 宮 演	音楽家、Studio FAT代表
	朴 晟 源	韓国藝術総合学校美術院 造形芸術科副教授
	朴 銓 烈	中央大学校日語日文学科教授
	孫 正 禹	韓国演劇演出家協会会長
	鄭 起 泳	NEOWIZ GAMES副社長
	鄭 梨 賢	小説家
	崔 鍾 日	韓国アニメーション制作者協会会長
	崔 泰 枝	国立バレエ団団長
事務局長	李 康 民	漢陽大学校教授

基調講演

イ・ジュメン

李準雄ソウル大学校助教授

「韓日大衆文化の交流と疎通の倫理」

近年の日韓間の文化交流は、種類と量の急激な増加、過去日本から韓国への一方的に近かった文化の流れの双方向への変化、交流の公式化、と特徴づけられる。韓国で日本の文化に触れる場合、一昔前までは何らかの「理由づけ」が必要だった。しかし、インターネットの登場で、同じ趣向を持つ世界中の人々の動きを認識できる「相互可視性」の世界が作り出され、韓国の日本文化ファン、日本の韓国文化ファンは、国内外に多くの仲間を得られるようになった。現在の日韓間の文化の共有現象は、このような「趣向の共同体」の形成が背景となっている。そこでは、他者との出会いを通じて、「市民的な礼節」「寛容」「信頼」を基調とした新しい倫理、すなわち自身に対する反省と省察が求められつつある。

小倉紀蔵委員「ハイブリッド化する日韓」

日本による韓国併合から100年を迎えた2010年、中国がGDPで日本を抜いて世界2位の経済大国となった。今後中国の浮上と、世界の中心としての東アジアの浮上が展望されるが、このような現象を自分は「正常化する東アジア」と「異常化する世界」と呼んでいる。日本では10年程前から「韓国に学べ」という言説が登場し、「韓流」ブームが到来し、日本と韓国の「ハイブリッド(相互異種混成)化」が進んでいる。これは、日本の「東アジア化」現象の一つであり、欧米のみだった「参照の軸」として韓国を意識し始めたということで、新しい時代の日本の「知」を変革する上で非常に重要な出来事である。「異質」なものの存在を認めた上での枠組みを目指すという意味で「東アジア共異体」を提案したい。

パネリストの発言

山村浩二委員:東京藝術大学と韓国藝術総合学校の学生が、2010年12月にアニメーションの共同ワークショップを開催し、「相乗相克」というテーマの下、両国の学生がペアを組んで10日間で作品を完成した。日本のアニメーションは、教育の立ち遅れや産業の空洞化など、危惧すべき状況にある。韓国との交流を通じて、新たな可能性を探りたい。

金亨駿委員:現在日韓ともに映画は興行的に苦戦し、相手国でのヒット作もなく、市場シェアも著しく低下している。韓国ドラマは日本で多くの作品が受け入



れられているが、映画の不振は日韓のマーケティング手法の違いに要因があるようだ。両国の市場でのマーケティング手法についての十分な検討が課題である。

有川節夫委員:九州大学は韓国の諸大学と、図書館交流、情報科学分野の学术交流、共通科目の設置など様々な交流を進めている。昨年創立10周年を迎えた「韓国研究センター」を中心とした研究活動も盛んである。小倉委員の指摘の通り、異なる部分は認め合いつつ、共に進められる活動がさらに広がっていくことを期待している。



パク・ジョニョル

朴銓烈委員:韓国側で実施した「日本文化の受容実態」に関するアンケート調査によると、「日常生活で頻繁に接する日本文化」として、大衆文化と並んで「茶道」や「歌舞伎」といった伝統文化がランクインしている。このことは、両国間の文化交流が相当な程度にまで深化し、ハイブリッド化していることの特徴であり、大きな意味を持つと評価できる。

市川森一委員:日本の放送界での韓国ドラマのシェアは拡大を続けており、韓国ドラマの脚本を日本人脚本家が執筆するという形式の共同制作の試みも成功を収めている。今後はより深いテーマに踏み込み、両国の魅力を見つけ合うことのできる作品の制作を目指したい。ドラマの質を高めていくためには、日韓合同のドラマ祭などの開催も効果的ではないか。

ソン・ジョンウ

孫正禹委員:「ハイブリッド」とは、一般的に互いに異質な材料を集めて新しいものを創り出す、という意味で使われるが、異文化に対する正確な知識、理解のないままに混ざり合ってしまうと、結果としていびつなものが出来上がってしまう可能性もある。「ハイブリッド」の対象や方法について、慎重に考える必要があるのではないか。



2月20日から26日までの7日間、「日韓青少年共同ボランティア活動事業」の訪日プログラムを実施しました。韓国の青少年団体の若手指導者や大学生30名が、日本の大学生と共同で、高齢者福祉施設でのボランティア活動やワークショップなどの研修に参加しました。

この事業は、日韓の青少年が共同で両国の共通課題をテーマとしたボランティア活動に取り組むことを特色としています。2009年度は「環境」をテーマに訪日・訪韓プログラムを実施しましたが、2回目となる2010年度は「高齢者福祉」をテーマに、日本で施設訪問及びボランティア活動、ワークショップなどの活動を行いました。

訪日プログラム初日には、今回の事業実施にあたってご協力いただいた宮城孝法政大学教授の講義を受け、日本の高齢者福祉の現状と課題について学びました。2日目には日本社会事業大学を訪問し、高齢者の日常動作を疑似体験するシニアシミュレーション実習を受け、高齢者の身体感覚を理解することで、実際に高齢者に接するボランティア活動の心構えを作りました。

本プログラムの核となるボランティア活動では、社会福祉法人サンフレンズ(東京都杉並区)のデイサービス施設と特別養護老人ホームを訪問し、施設を利用している高齢者の方々



シニアシミュレーション実習

に歌の披露や懇談の時間を持ったほか、一緒に韓紙工芸に取り組みました。完成した韓紙工芸を前に、高齢者の方々からは「韓紙は丈夫で色が

綺麗ですね」、「家で小物入れとして使います」などの声が上がっていました。短い滞在でしたが、高齢者の方々は一行的訪問を喜んで下さいました。

最終日には、本プログラムの総括として日韓の参加者が共同報告会を行い、今回の研修で感じたことをお互いに報告しあい、「超高齢化社会を安心して迎えるために必要なこと」をテーマとしたボランティアプログラムを開発するワークショップを行いました。各グループは熱心な議論を経て、次のようなボランティアプログラムを発表しました。

地域の青少年が高齢者から話を聞いて「人生史」を作成することで、世代間のコミュニケーション断絶を防ぐ「My Story - 自分史作り - 」プログラム

青少年が高齢者の方を「師」と仰ぎ、高齢者の方が得意とするものについて指導を受ける「先生、私たちの先生!」プログラム
一人暮らしの高齢者の方が孤立しないように、地域のボランティアと一緒に活動を行う「手と手をつないで」プログラム
独居老人の社会的孤立を解消するために、青少年と独居老人がグループを作り、写真クラブ活動を行い、展示会を行う「時間よ止まれ「カシャッ」」プログラム

今後の超高齢者社会を迎えるためのボランティアプログラムの開発を通じて、日韓の青少年は、高齢者福祉の重要性和高齢者福祉が日本と韓国が共同となって取り組める課題であることをより強く認識しながら、今回の研修を締めくくりました。

《日程》

- 2月20日(日) 韓国側一行到着
ソニーエクスプローラサイエンス見学
- 21日(月) 宮城孝法政大学教授による講義
歓迎昼食会
外務省・菊田真紀子外務大臣政務官表敬訪問
浅草見学
- 22日(火) 日韓青少年の顔合わせ
日本社会事業大学訪問
- 23日(水) ボランティア活動(社会福祉法人サンフレンズ)
- 24日(木) 江戸川区役所訪問
日本文化体験(能、和太鼓)
- 25日(金) 日韓青少年共同報告会
- 26日(土) 帰国



デイサービス施設で高齢者の方と一緒に韓紙工芸に取り組む。



日韓青少年が共同で超高齢化社会におけるボランティアプログラムを考え発表した。

2010年度のシリーズ講演会第3回は、朝鮮文学初の近代長編小説『無情』を書き、「朝鮮近代文学の祖」と称されながら、解放後には「親日文学者」の烙印を押され北朝鮮で死亡した作家・李光洙の生涯とその作品について、『無情』の翻訳者である波田野節子新潟県立大学教授をお招きし、お話をうかがいました(2010年12月3日(金)、日韓文化交流基金会議室)。



李光洙(1892年~1950年)は、小説家、民族独立運動家、詩人、言論人、教育者など、非常に多面的な活動をした人物です。彼は「余の作家的態度」(1931年)という文章で、「わたしが小説を書く究極の動機は……わたしが行なうすべての行為の究極の動機と一致するのであって、それはすなわち<朝鮮と朝鮮民族のための奉仕 義務の遂行>である。これのみであり、またこの他に何も無い」と語りました。

しかし、皮肉なことに、彼は親日行為によって、今に至るまで「民族の反逆者」とされている人物でもあります。最近も、韓国のインターネット新聞で、釜山にある彼の詩碑(写真1)について、「親日派の詩碑など民族の恥である。直ちに撤去せよ」と書かれたことがありました。



写真1 海雲台の李光洙の詩碑

最初の留学と文学の目覚め

李光洙は1892年に平安北道定州の貧しい家に生まれました。父母は1902年に朝鮮半島を襲ったコレラの流行で亡くなり、彼は10才で孤児になります。そして当時朝鮮の北部で盛んになっていた東学に身を寄せたことから、東学の留学生として、日本に留学することになります。

1906年4月に大成中学校(東京・三崎町)に入学したものの、天道教(東学から改名)の内紛問題により数か月で学費が途切れ、退学を余儀なくされて一度帰国します。幸い天道教の留学生全員が特別に官費を支給されることになり、李光洙は翌年秋に明治学院普通部(中学校)に編入します。

明治学院での1907年秋から1910年3月末までの2年半、彼は勉強に打ち込む一方で、多くの日本小説と翻訳された西洋文学作品を読んで文学に目覚め、自分でも作品を書き、また文学を通じた交友を深めます。同時期に日本に留学していた洪命憲(1890年~1968年。歴史小説『林巨正』作者。後に北朝鮮副首相)、このころ韓国で最初の総合雑誌『少年』を出していた崔南善(1890年~1957年。詩人、歴史学者)、そして李光洙の三人は、「韓末の三天才」と呼ばれて、終生にわたる縁を結びました。李光洙の処女作は、明治学院中学校誌『白金学報』に1909年12月に発表した「愛か」という日本語小説だと思われます。

二度目の日本留学と『無情』

明治学院中学を日韓併合直前の1910年3月に卒業した李光洙は、生まれ故郷の定州にもどって結婚し、民族主義者・李昇薫が設立した五山学校の教員として民族教育や農村改造運動に熱心に取り組みます。しかし、やがてこの生活に行きづまりを感じ、1913年の終わり頃に大陸放浪の旅に出て、1915年には早稲田大学に再度留学します。

彼がやってきた大正時代の東京は、非常に自由な空気に溢れていました。『無情』の最初の場面で、主人公の青年が大変緊張しているのは、男女が親しく接することのない朝鮮の環境を描いたものでした。ところが、東京では若い男女が自由に付き合うことができ、朝鮮に早婚した妻を置いてきた男子留学生と未婚の女子留学生の間にはしばしば問題が起きました。李光洙も女子留学生らと交際し、韓国最初の女医になる許英肅と愛し合うようになります。

この第二次留学時代こそ、李光洙の輝かしい青春時代といえるでしょう。予科を経て1916年9月に早稲田大学哲学科に入学したころから、朝鮮で唯一の朝鮮語新聞である『毎日申報』に論説を書くようになり、1917年には同紙に『無情』の連載を始めて、人気を博します(写真2)。日本では第1次大戦の影響でインフレが起きており、学費不足の彼は『毎日申報』からの原稿料で何とか大学生活をやっていけるほどでした。栄養不足もあって、彼はこのころ日本に蔓延した肺結核に罹りますが、許英肅のおかげで一命を取り留めます。



写真2 『無情』連載第1回

『無情』にはヨンチェとソニョンという二人の女性が登場します。20年前の論文で私は、ヨンチェには故郷に残してきた妻の姿が投影されていると書きました。状況からすれば、ソニョンの方には許英肅が投影されているのではないかと思っ ていましたが、最近李光洙の第二次留学時代を詳しく調査した結果、『無情』を書いたのはまさに許英肅と知り合ったころであり、作中に見られる主人公とソニョンとの自意識の葛藤には、やはり李光洙と許英肅との葛藤が投影されているとわかりました。また、『無情』に現れる虚無的な部分は、そのころ彼

が肺結核に罹っていたことを想像させます。

1919年2月8日、東京で留学生たちが独立を宣言し、その1か月後には本国で3・1運動が起きます。李光洙は自分が起草した宣言文の英訳をもって東京から上海に亡命し、大韓民国臨時政府の樹立に参加します。写真3を見ると、若いのに真ん中に誇らしげに写り、オーラが感じられます。後ろに立っているのが独立運動家の安昌浩(1878年～1938年)で、彼との出会いが、李光洙のこの後の道程を決めることになりました。



写真3

上海臨時政府集合写真。前列左から3番目が李光洙。後列左から4番目が安昌浩

修養同盟会時代と弾圧、転向

安昌浩は平安北道の出身で、米国で「興土団」を創り、独立準備のための民族自強の思想＝興土団思想を唱えました。それに共鳴した李光洙は、上海を離れて朝鮮にもどり、1922年に興土団思想の団体である修養同盟会(後の同友会)を立ち上げます。この時期の彼にとっては修養同盟会が生活の柱であり、ある場所で彼は「小説は余技だ」と言っています。しかし、余技というにはあまりにも多くの小説を書いています。やがて彼は、子どもを亡くしたり、結核の再発に苦しんだりして、次第に仏教への傾倒を深めていきます。

1932年(満州事変の翌年)に、安昌浩が上海で日本の警察に逮捕されて送還され、3年間刑務所に入ります。出獄して2年後の1937年に同友会事件が起きると、また逮捕され、病気保釈されたものの、翌年3月に亡くなります。この事件で李光洙自身も逮捕されて、やはり病気で保釈されています。同友会は朝鮮総督も了解のうえで発足した合法的な団体でしたが、時代が変わってしまったのです。1937年には同友会を含め、さまざまな団体が朝鮮総督府による弾圧の対象になっています。この事件で同友会は多くの逮捕者を出し、司令塔である安昌浩を失うなど大きな打撃を受けました。李光洙は責任を担わざるを得ない立場に立たされます。

1938年11月、李光洙は同友会の会議を開き、朝鮮総督府に転向をアピールします。1941年の無罪判決まで裁判に明け暮れる日々がつづきますが、彼は病床でも口述筆記で執筆するなど、「余技」には激しい創作活動を続けています。

1938年から解放までは、逆に、ある意味でわかりやすい時期だと言えるかもしれません。彼は日本に協力し、日本語で小説も書きます。しかし短編小説は書いても、長編小説はつねに未完に終わっています。また、激烈に天皇を礼賛する論説を多く残していますが、決まり文句ばかりで、よく見れば内容的には民族改造論を書いていたころの延長であって、大

きく変わってはいません。

第三回大東亜文学者会議(1944年、南京)に李光洙が朝鮮代表として出席したときのことを、一晚同じ部屋で寝た金八峰(文学評論家、小説家)が書き残しています。李光洙は<どうせやるなら、徹底的に日本人になって日本人に勝ち、むこうが嫌がって、頼むから出て行ってくれと言うまでやるんだ>という意味のことを言ったので、金八峰は、そんな夢みたいなこと、何言っているんだ、と寝てしまった、と書いています。自分の言葉に行動の方を合わせるところまで行っていたとさえ思えます。彼の対日協力は、痛ましいほどです。

解放と死去、李光洙研究の現在

思陵で農業生活をしながら隠棲していた李光洙は、そこで解放を迎えます。1949年に反民族行為処罰法によって逮捕されますが、保釈・不起訴になっています。1950年6月に朝鮮戦争が勃発したとき、李光洙は病気でした。7月には人民軍によって逮捕・収監され、そのまま平壤に送られたようです。やがて連合軍の上陸による戦線の北上で、平壤からさらに北に移動している時、寒さにやられ、江界付近で10月に亡くなったと言われています(写真4)。



写真4 北朝鮮の李光洙の墓

最近、李光洙研究は再び熱を帯びているようです。私が李光洙研究を始めた1980年代の終わり頃から論文を書いた1990年代初めにかけての韓国では、李光洙研究をしていると言にくい雰囲気があり、私の日本語の論文がいつか韓国語に訳されて韓国の人が読むなんて考えられませんでした。ところが、1990年代後半ごろから雰囲気が変わり、最近では学界の重鎮が重厚な研究書を刊行するとか、李光洙研究のための学会が設立されるなど、研究が活発に行われるようになりました。年配の李光洙研究者からは、自分が体感として知っている李光洙の時代のことを書き残しておきたいという熱意が感じられます。一人の人間をどう見るかということは、社会のあり方を表しているものですから、韓国の社会の変化とともに、李光洙の研究もこれから変わっていくのではないかと考えています。

PROFILE 波田野 節子

はたの せつこ

青山学院大学文学部日本文学科卒業。県立新潟女子短期大学国際教養学科教授を経て、現在新潟県立大学国際地域学部国際地域学科教授。韓国近代文学専攻。翻訳『金色の鯉の夢 - オジョンヒ小説集』(段々社)、李光洙『無情』(平凡社)、オジョンヒ『夜のゲーム』(段々社)、著書に『李光洙・『無情』の研究 韓国啓蒙文学の光と影』(白帝社、2008年)、NHKラジオ講座『まいにちハングリ! 応用編』講師。

2011年度助成対象事業には82件の申請があり、この中から50件への助成が決定しました。

事業名	申請団体	実施期間	場所
ロボットの珍しい世界の体験展	からくり文化実行委員会	4/8～11、6/3～6	国立中央科学館(韓国)
日韓青年よさこいチーム 朝鮮通信使祝祭参加事業	NPO法人翔青会	5/6～8	釜山市
日本居住福祉学会全国大会特別セッション 「日韓の居住福祉政策の展開と実践」	日本居住福祉学会	5/14～16	大阪市立大学
芸術文化による国際交流	のこされ劇場	5/19～22 2011/10	北九州市・枝光本町アイアン シアターほか
日・韓 くさわら時間	NPO法人金沢アートグミ	5/25～29	金沢市立中村記念美術館
アジア芸術家交流 京都からの出発	アジア芸術家交流会実行委員会	6/4～30	京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA(アクア)
武寧王陵出現40周年記念講演 「百済武寧王と末廬国～武寧王は 日韓をつなぐ懸け橋」	武寧王交流唐津市実行委員会	6/5	佐賀県立名護屋城博物館
コリアン・ディアスポラの記憶と和解	東京大学大学院情報学環 現代韓国研究センター	6/25	東京大学生産技術研究所
第10回国際家族看護学会	日本家族看護学会	6/25～27	国立京都国際会館
日韓子ども自然観察会 ～吉野川に集まろう!	(社)韓国子ども植物研究会	7/19～22	徳島県・吉野川周辺
めっちゃサランヘヨ・ノムノム愛してる～ “ 함께 = とともに ”TALK&LIVE2011～	“ 함께 = とともに ”高校生 平和特派員実行委員会	7/21～26	ソウル市、全州市ほか
きれいな海を守るための 日韓青少年の奉仕活動	韓日社会文化フォーラム	7/22～29	島根県松江市ほか
日韓子どもシンポジウム2011	(社)釜山韓日文化交流協会	7/25～29(訪韓) 8/15～20(訪日)	釜山市 福岡市
日韓高校生合同演劇企画 「JAK(Japan and Korea)」	NPO法人沖縄県芸術文化振興協会	7/27～30	沖縄県沖縄市
韓国「木浦共生園」との交流	社会福祉法人 県北報公会	7/30～8/4	秋田県・児童養護施設陽清学園
2011韓日青少年写真文化交流	(社)明るい青少年	8/2～6(訪日) 8/11～15(訪韓)	福島県 ソウル市、江原道ほか
日韓未来構築フォーラム 誠信学生交流2011年	早稲田大学アジア研究機構	8/4～7	滋賀県、広島県
日韓歴史教育交流会晋州シンポジウム	日韓教育実践研究会	8/6～7	晋州市
日韓親善中学生フラッグフットボール ・文化交流	優志会	8/6～8	九州産業大学ほか
日韓合同授業研究会第17回交流会 埼玉大会	日韓合同授業研究会	8/5～8	江原道
第27回日韓学生フォーラム	日韓学生フォーラム	8/8～22	京都府、東京都ほか
韓国・清州大学校との 学生交流プログラム	鳥取環境大学	8/9～12(訪日) 2011/8(訪韓)	鳥取県鳥取市 清州市
日韓学生" 短編映画 "交流プロジェクト	NPO法人日韓次世代交流映画祭	8/10～17	大分県竹田市、佐賀県佐賀市

学生のための国際ビジネスコンテスト OVAL Seoul 2011	OVAL実行委員会日本委員会	8/10～19	ソウル女性プラザ
日韓獣医学生交流プログラム	日本獣医学生協会	8/12～16(訪韓) 8/22～26(訪日)	ソウル市 神奈川県(予定)
2011丹波市・日韓少年サッカー交流	春日フットボールクラブ	8/19～22	ソウル市
第18回一橋大学・ソウル国立大学 フィールドホッケー交流戦	一橋大学フィールドホッケー部	8/19～22	一橋大学国立キャンパスほか
新かちがらす～友好からパートナーシップへ～	認定NPO法人地球市民の会	8/20～27	佐賀県
日韓交流 「いけばな...一緒にいけて(作って)みよう!」	錦舟会	8/22～26	駐韓日本大使館公報文化院
韓国の小学生とホームステイ交流をしよう	小郡・三井 日韓小学校交流実行委員会	8/26～28	釜山市・トンジュ初等学校ほか
韓国スタディツアーおよび韓国大学生との 国際交流会(韓国体育大学・世明大学大学生 との国際交流会)	立命館大学産業社会学部 韓国社会文化研究会	8/30～9/6	ソウル市、京畿道ほか
両生類と気候変動の市民モニタリング 日韓交流プログラム	グリーンコリア	2011/8(訪韓) 2012/2(訪日)	ソウル市 茨城県土浦市ほか
福岡インディペンデント映画祭 (FIDFF)2011	福岡インディペンデント映画祭 実行委員会	9/9～13	福岡アジア美術館
日韓ユース・カンファレンス	(財)日本YWCA	8/29～9/2	ソウル市・韓国YWCA
日韓印刷文化シンポジウム	国際印刷大学校	9/17	東京都・日本印刷会館
「むなかた・かんこく」(仮称)	「むなかた・かんこく」公演実行委員会	9/18～19	福岡県・宗像ユリックス
よさこいワークショップ in ソウル	躍動	9/23～26	ソウル市
LEAFフォーラム2011 日本セッション	LEAF日本実行委員会	9/24～30	国立オリンピック記念 青少年総合センター、東京大学
日韓交流おまつりでの音楽による交流	太鼓集団蒲生郷太鼓坊主	9/25	ソウル市
「日韓交流おまつり2011 in Seoul」 秋田竿燈まつり派遣事業	秋田市竿燈まつり実行委員会	9/25	ソウル市
日韓高校生交流事業 「アジアの隣人:共に学び絆を結ぶ」	NPO法人グローバルプロジェクト 推進機構JEARIN	10/1～7	ソウル市
Kids' Asian Union Camp 2011 in Japan	NPO法人子どもたちのアジア連合 (Kids' Asian Union)	10/2～7	福井県若狭町、小浜市ほか
空飛ぶ車いすin新居浜	愛媛県立新居浜工業高等学校	10/13～18	愛媛県新居浜市
第8回ゴールドコンサート 日韓国際交流・ 障がいを持つ音楽家たちのシンフォニー	NPO法人日本バリアフリー協会	10/15	東京国際フォーラム
第24回東京国際女性映画祭	東京国際女性映画祭実行委員会	10/22～25	セルバンテス文化センター東京
韓国高校生交流事業(韓日高校生交流)	(財)三重県国際交流財団	10/24～30	三重県立津商業高等学校、 三重県総合文化センターほか
青森・韓国ねぶた交流事業	青森空港国際化促進協議会	11/4～20	ソウル市
平成23年度宮崎県高等学校文化連盟 国際文化交流事業(国際交流ワークショップ)	宮崎県高等学校文化連盟	11/11～13	ソウル市・微来産業科学高等学校
ジャパンウィーク2011・Lipsコンサート	(株)ウォーターネットSG	11/17～20	清州市
日韓子ども湿地交流 ～COP10がつなく夢飛翔～	NPO法人藤前干潟を守る会	12/25～28	慶尚南道・牛浦沼注南貯水池

2004年頃から、韓国では健康の合言葉「Well-Being」が大流行した。その後、合言葉は周囲の自然環境にも配慮しながら健康を求める生活スタイルである「LOHAS」や「真環境」に取って代わったが、いまだ健康に対する情熱は冷めるところか加熱している。

これら健康への情熱は、もちろん日本でも高いといえるが、どうも加熱度をみるかぎり、日韓で差があるように思われた。この差を東洋医学の伝統の差に求めることもできようが、社会変化との関わりでみたときに何かいえないだろうか、それが今回の在外研究の始まりであった。そこで昨年、日韓文化交流基金フェロースhipを受けて、1年間、地方都市の錦山キムサンに通った。韓国最大の薬草市場として知られるソウル・京東市場をすでに凌いだともいわれる薬草市場が、錦山にあるからというのが調査地決定の理由である。

錦山は韓国中部の中核都市・大田広域市から20kmほど南に位置する忠清南道の一都市である。現在でこそ、大田市との間で人的移動が激しく、大田市に居住しながら錦山に通勤する者も多いが、1963年まで全羅北道に含まれており、全州市チュンジュとの往来がみられた境界線に位置する都市である。四方を山で囲まれた盆地で、錦江が市内をかすめ、周囲の山々が適度な水気を保有してくれるため、霧が発生しやすく薬草全般が自生しやすい地形にある。

そして、何よりもこの錦山を有名にしているのは高麗人蔘(朝鮮人蔘・御種人蔘)で、韓国全体に流通する高麗人蔘の約7～8割が錦山を通過するといわれている。高麗人蔘とは、五加皮やウドを含むウコギ科(Araliaceae)の植物で古来より霊薬とされており、中国には朝貢の品として用いられてきた。高麗人蔘は、韓国で単に「人蔘」と呼ばれるものの、日本で想像しやすい青果店にある赤いニンジン(carrot)、つまりセロリやミツバを含むセリ科(Apiaceae)の植物とはまったく異なるものである。



収穫された人蔘

文献上、高麗人蔘が最初に登場したのは漢代の『急就章』といわれ、紀元前にさかのぼる。韓国内の主産地としては、開城ケソク、江華カンファ、豊基ブンギ、錦山がある。このうち開城は高麗人蔘として知られ、その脈を受けて栽培されたのが江華地域であった。また豊基を新羅人蔘とすれば、それらに対して百濟人蔘として知られたのが錦山で産出されたものとなる。

錦山には山神から初めて高麗人蔘がもたらされたという伝説があり、進楽山の麓「開蔘ト」(トは場所の意)では毎年「開蔘祭」が執り行われる。錦山は全体が高地で、寒暖の差が激しいため、高麗人蔘の生育に適しているといわれる。そのようなことから、栽培も昔から行われ、全国的に錦山の高麗人蔘が知られるようになった。高麗人蔘の加工も古くから行われており、漢方薬局で取り扱われる白蔘の加工は地場産業ともいえ、高麗人蔘の薄皮をむいて軽く乾燥させた後、再び水気を与えて丸く縛り、再び乾燥させて行う。

白蔘加工を含む高麗人蔘の加工業者は、錦山に200ヶ所とも300ヶ所ともいわれ、家庭単位で小規模に行われているものまで含めると500ヶ所は越えるといわれている。人口が6万人にも満たない錦山郡内に、このような製造加工業者に加えて、400～500軒ともいわれる小売・卸業者、そのほか高麗人蔘の種や苗を扱う業者、高麗人蔘を含む薬草を煎じる業者、人蔘栽培農家など、実に多くの人々が高麗人蔘に携わっている。

また、直接に高麗人蔘を扱わなくとも多くの産業が高麗人蔘と関連する。人蔘栽培は特殊で手間がかかるためである。高麗人蔘畑の日除けシートや支柱木を製造する業者、苗蔘を覆うワラを編む業者、特殊肥料を扱う業者がいる。収穫期には日に数百人単位の労働者が早朝4～5時から動くため、市場の食堂も彼らに食事を提供し、現場にまで出張する。それ以外に高麗人蔘製品を運ぶ流通業者がある。人蔘協同組合が前身となる錦山人蔘農協も郡全域に拠点をもつ。このように考えると、実に多くの人々が高麗人蔘で生計を立てていることがわかる。日本の豊田市がトヨタ自動車、韓国の蔚山市ウルサンが現代財閥で成り立っているように、錦山は高麗人蔘なくして成り立たないといえる。

これほどまで高麗人蔘というアイテムが大きな位置を占めてきたのは、韓国が高度経済成長期に入ってからと考えられる。以前の錦山薬草市場は、昔のバスターミナルがあった旧市場からさほど遠くない距離に形成されていた。しかし、その後、経済成長にともなって集客力が伸び、高麗人蔘以外の薬草全体を扱うようになるにつれ、人蔘薬草市場も土地のある西部へと拡大していったのが1980年代頃であった。それまでは大量に流通し始めた、安価で即効性が高い西洋薬にゆだねる部分が多かったが、徐々に家計に余裕が生じるとともに高所

得層を中心に高麗人蔘をはじめとする生薬のよさをみなおす気運が高まったからともいえる。

同時に高麗人蔘に着目すれば、栽培技術の向上と栽培資材が簡便・低価格化することで大量に流通し、相対的な価格が下がったことも影響している。それまでは、漢方医が高麗人蔘を用いるにも、細かく裁断していたものが、ひとかけらずつを単位に処方するようになった。30～40個入った一箱が今日、5kgほどの米の値段であるが、当初は1カマ(80kg)を購入できたという。つまり、単純に計算しても1/16に値下がりしたのである。



人蔘の天ぷら

そのことで人々の高麗人蔘に対する認識も変わった。貴重な霊薬であったはずの高麗人蔘が少し高価な食材へと認識を変えている。今日、錦山で人気の名物に高麗人蔘の天ぷらがある。これなども以前からあったといわれるが、一般的に普及したのは1990年代中盤以降、「錦山人蔘祝祭」などで大々的に販売されるようになってからである。2000年に入って町のあちこちで高麗人蔘天ぷらが販売され、「元祖」と看板に掲げるところまでであるが、当初は古老から「高価な薬で菓子をつくるとは何だ」と叱責されたと聞く。

また、2000年を前後して各地で漢方薬や健康に関連するイベントが多く開かれるようになった。韓国では近年、地方自治体の広報としてご当地イベントが盛んに開かれるようになったが、漢方薬を題材にしたイベントが多い。東洋の名医、許浚ホジョンと関連が深い山清郡サンチョンで10年前から「山清韓方薬草祝祭」、薬令市で有名な大邱テグや慶尚北道から産出される薬草の集散地である永川ヨンチョンでも8回目となる「韓薬長寿祝祭」が開催されている。人蔘を題材にしたイベントでは、錦山のほか、豊基パジュ、坡州などでも開かれ、昨年ソウルで「大韓民国人蔘祝祭」が開かれた。また、野生の高麗人蔘である山蔘を題材にした「山蔘祝祭」が咸陽ハミヤンで開かれ、今年8回目となる。前述の大邱では大邱市コンベンションセンターで毎年開かれる見本市「漢方エキスポ」は昨年で10回目を迎えたほか、昨年は江原地

域から産出される薬草の集散地である堤川チエチョンで「国際韓方バイオエキスポ」が開かれた。今年度は、錦山で2006年以来5年ぶりに「世界人蔘エキスポ」が開かれ、山清でも「世界韓方エキスポ」が計画されている。



第30回錦山人蔘祝祭(2010年)

以上のように高麗人蔘1つをとってみても、貴重な霊薬から食材へ、そして気軽な健康シンボルへと高麗人蔘が変化してきている。漢方薬全体をみても、健康を維持するために服用する「補薬」ボヤク自体が長らく韓国社会で高嶺の花であったのが、今日は各地方自治体がそれを呼び物にし、人々はそこに参加するだけで気軽に健康になったかのような気持ちになる。実際に漢方薬を煎じる機会が少なくなる一方で、お手軽な健康は求められている。

むしろ、この1年を通じて「健康を得た気分になる」ことこそその大切さを感じてきた。これは決して否定的にだけ捉えられない。ある状況下において、「この気分」は最大限に「効果」を発揮するからである。過度にさえならなければ、楽しみながら健康になる1つの道であり、実はそれこそ多くの人々が必要なことではないだろうか。

今後は、高麗人蔘を中心に、漢方薬とブラシーボ効果(偽薬効果、暗示効果)の関わりについて人々の間で行き交ううわさを聞きながら、成果をまとめていきたい。

PROFILE 林史樹

はやしひみき

1968年大阪生まれ、同志社大学文学部卒業、東京外国語大学大学院博士前期課程修了、総合研究大学院大学博士後期課程修了、博士(文学)。現在、神田外語大学外国語学部韓国語学科准教授。主な著書に『韓国のある薬草商人のライフヒストリー』(2004年、御茶の水書房)、『韓国がわかる60の風景』(2007年、明石書店)、『韓国サーカスの生活誌』(2007年、風響社)などがある。



2011年度訪日・訪韓研究支援(フェローシップ)の採用者が決定しました。訪日49名、訪韓4名の応募があり、このうち訪日は24名、訪韓は2名が採用されました。

訪日フェロー一覧

氏名 所属・職位	研究テーマ	受入機関
鄭成春 対外経済政策研究院 研究委員/日本チーム長	日韓FTA締結への障害要因 についての研究	独立行政法人日本 貿易機構アジア経 済研究所
李旺茂 韓国学中央研究院蔵書 閣研究所専任研究員	大正6(1917)年の李王(純 宗)の日本東上(天機奉伺)に 現れた植民地支配政策の国 家儀礼研究	東京大学大学院 総合文化研究科
盧琦雲 国家記録院大統領記録 館学芸研究士	日韓交渉期日本国内の国交正 常化推進論理に関する研究	東京大学大学院 総合文化研究科
金英美 国立中央博物館 学芸研究士	新安船と東アジアにおける物 質文化交流	大阪市立東洋陶磁 美術館
李侑珍 崇実大学校人文学部史 学科非常勤講師	8-10世紀、新羅・日本人の 入唐求法僧と東アジアの海商	国学院大学大学院 文学研究科
李昌熙 国立歴史民俗博物館 研究支援者	新年代観による弥生時代・青 銅器時代～原三国時代におけ る日韓交流の再解釈	国立歴史民俗博物館
崔然植 延世大学校社会科学大学 政治外交学科副教授	俞吉濬の福沢諭吉に対する理 解:日本の社会進化論の受容 と朝鮮独立の進路	慶應義塾大学 法学部
禹炳喆 嶺南文化財研究院 慶州調査事務所 調査チーム長	3-6世紀における武器の比 較検討を通して見た韓日関係 に対する新たな展望	奈良県立橿原考古学 研究所
柳現錫 慶熙大学校政経大学政 治外交学科教授	東アジアサミットへのアメリ カの参入以降の日本の対東ア ジア地域戦略	慶應義塾大学 法学部
金秀廷 コロンビア大学東アジア 言語文化学科博士課程	日本宗教文化における韓国 渡来系の神々:新羅明神を中 心に	佛敎大学 文学部人文学科
許兼 東京藝術大学大学院 美術研究科文化財保存 学専攻博士課程	文化財建造物に使用された補 強金物に関する研究	東京藝術大学大学院 美術研究科
鄭南順 国家安保戦略研究所 研究委員	北朝鮮の政治・経済体制の現 状と展望 先軍時代から金正 恩後継への問題点と課題	京都産業大学 経済学部
尹龍赫 公州大学校師範大学 歴史教育科教授	沖繩浦添城と琉球・高麗の交 流史	琉球大学法文学部

朴泰圭 韓国芸術総合学校舞踊院 付設世界民族舞踊研究所 責任研究員	日本の雅楽高麗楽の源泉に関す る研究 渤海楽を中心に	瑞穂雅楽会
黄善美 韓国外国語大学校中国 語大学中国学部非常勤 講師	近代日本雑誌を中心として見た 韓国及び中国翻訳文学	横浜国立大学 留学生センター
崔秀峰 聯合ニュース編集局北 韓部編集局部長待遇	金正恩後継と北朝鮮政治の動向	尚美学園大学 総合政策学部
朴暎美 檀国大学校東洋学研 究所責任研究員	20世紀初頭朝鮮における近代 的漢学の形成と日本漢学の影響 朝日漢学者の交流を中心とし て	二松学舎大学
李炳萬 漢陽女子大学校日本語 通訳科助教授	日本語の敬語の史的・幕末・ 明治の人情本を中心に	国学院大学 栃木 短期大学
李和真 延世大学校 文科大学国語国文学科 非常勤講師	「植民地/帝国」の言語編成に おけるトーカーの越境的な消費 に関する研究 「日本版映画」 から「日本語映画」へ	京都大学大学院 文学研究科
崔賢熙 カリフォルニア大学アー バイン校東アジア言語 文学科博士課程	植民地朝鮮の「親日文学」と日 本の「近代の超克」談論	東京外国語大学 大学院総合国際学 研究院
徐希姫 ソウルデジタル大学校 ファッション美術学部美 術経営専攻非常勤講師	近代日本におけるパウハウス基礎造 形教育とその文化政策の意義 植民 地時代の朝鮮におけるパウハウス基 礎造形教育の受容との関係を巡って	東京大学大学院 人文社会系研究科
車智賢 カリフォルニア大学ロサ ンゼルス校アジア言語 文化学科博士課程	日本人韓国語学習者に対する発 音教育	早稲田大学大学院 教育学研究科
申宰昊 ペンシルバニア大学 東アジア言語文明学科 博士課程	トランスナショナル・ヒストリー の観点から見た中世韓日/日韓 交流史	東京大学大学院 人文社会系研究科
趙丁垣 韓国外国語大学校教養 学部非常勤講師	日本の人間の安全保障外交の構 想についての研究:政府、学会、 NGO・市民社会による人間の安 全保障の拡張努力を中心に	慶應義塾大学 法学部

訪韓フェロー一覧

氏名 所属・職位	研究テーマ	受入機関
長森美信 天理大学国際学部 外国語学科 韓国・朝鮮語専攻准教授	17-19世紀朝鮮の水陸交通路 に関する基礎的研究	ソウル大学校 奎章閣韓国学 研究院
波瀆剛 九州大学大学院 比較社会文化研究院 准教授	1930年代の東アジア地域間に おける文化の交渉と翻訳 モダ ン都市東京・ソウルと芸文	ソウル大学校 日本研究所

1 青少年交流事業

訪日団

団体名	団 長	計	男	女	期 間	主な訪問先
韓国青年 (第1団)	田泰重(チョン・テジュン) 江西高等学校教諭	30	13	17	1/5～14	横浜国立大学
韓国青年 (第2団)	金仙姫(キム・ソンヒ) 昌原大学校日語日文学科教授	30	11	19	1/5～14	神田外語大学
韓国青年 (第3団)	朴宰亨(パク・ジェヒョン) 済州特別自治道教育庁政策企画室長	30	9	21	1/5～14	大東文化大学

訪韓団

団体名	団 長	計	男	女	期 間	主な訪問先
日本大学生 (第1団)	浅野豊美 中京大学国際教養学部教授	19	10	9	3/1～10	ソウル市立大 順天大学校

日本大学生訪韓研修団(2)は、東日本大震災の影響により中止しました。

2 官民若手交流事業 ハンナラ党職員招聘

2月13日から18日の間、柳基滋(ユ・ギヒョン)ハンナラ党釜山市党事務局長をはじめとするハンナラ党職員4名が来日し、各政党関係者との面談のほか、国会及び産業・文化施設の視察を行いました。

官民若手交流事業の国会議員2名(1月)の招聘は韓国国内の
口蹄疫感染拡大により、国会議員補佐官4名(3月)の招聘は
東日本大震災の影響により中止しました。

3 若手マスコミ関係者招聘事業

2月21日から7日間、釜山・済州地域の地方紙及び放送局の
記者・プロデューサー等14名を招聘し、テレビ局・新聞社の
訪問とマスコミ関係者との懇談、溝畑宏観光庁長官表敬、取
材活動や地方見学などを行いました。

4 日韓ボーイスカウト事業

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟へ委託
している「日韓ボーイスカウト交流事業」が行
われました。今年度は韓国ボーイスカウト
152名(スカウト131名、指導者21名)が、
1月8日(土)から17日(月)まで9泊10日の
日程で日本を訪れました。

日本滞在中は日韓スカウトフォーラムのほか、
山梨での環境学習プログラム、京都での中学校・
高校の訪問、関西地区でのホームステイなど
を通じて交流を深めました。



書道の授業を体験
(京都市立塔南高等学校)

5 日韓高校生交流キャンプ

(社)日韓経済協会への委託事業で、日韓の高校生が合宿形式で交流する「第16回日韓高校生交流キャンプ」が2月8日～12日の4泊5日間、ソウルで開催され、両国からそれぞれ50名、計100名の高校生が参加しました。日韓混成の10チームが、「市場調査」から始めてビジネス企画を作成・発表したほか、両国の伝統衣装や伝統的な遊びの体験行事など、短期間ながら密度の濃い交流が行われました。



プレゼンテーションに向けてアイデアを出し合う

6 理工系大学院生研究交流事業(招聘)

(財)日韓産業技術協力財団への委託事業である「理工系大学院生研究交流事業」の招聘プログラム「Winter Institute」が1月5日から2月19日までの46日間行われ、38人の韓国の大学院生が、専攻分野と関連する日本国内の10カ所の研究機関に分かれて研修を行いました。

7 交換留学生支援

2007年度より独立行政法人日本学生支援機構に事業を委託し、日韓の大学間協定による韓国人留学生を支援する事業を行っています。2010年度は、日本の227の大学に在籍する336名の韓国人留学生に奨学金を供与しました。

8 在サハリン「韓国人」留学生受け入れ事業

2008年度から始まったサハリン国立大学の「韓国人」学生の日本留学を支援する事業で、2010年度は2名の学生が九州大学で1年間の留学生生活を送りました。

9 報告書

以下の報告書が完成しました。

フェローシップ

『訪日学術研究者論文集 第17巻』(2006年9月～2010年8月)

『訪韓学術研究者論文集 第11巻』(2008年4月～2010年3月)

青少年交流事業

三重県中学生訪韓研修団(2010年9月12日～18日) 日本教員訪韓研修団 第1団(2010年6月21日～7月1日)

山梨県高校生訪韓研修団(2010年10月17日～23日) 日本教員訪韓研修団 第2団(2010年11月15日～25日)

神奈川県高校生訪韓研修団(2010年11月21日～27日) 日本大学生訪韓研修団 2009年度第2団(2010年3月16日～25日)

日本大学生訪韓研修団 外交通商部招聘(2010年11月9日～18日)

『日本における韓国・朝鮮研究 研究者ディレクトリ 2010年調査』

『第10回日韓・韓日歴史家会議報告書 ‘歴史を裁く’ことの意味』

10 理事会

3月29日に第49回理事会および評議員会が開催され、2011(平成23)年度事業計画及び予算が承認されました。

11 維持会員

2011年1月1日～3月31日の期間に、個人会員10名の方に維持会員制度にご加入いただき、10万円の会費収入となりました。皆さまのご厚意に深く感謝申し上げます(五十音順、敬称略)。

小倉紀蔵	菅野修一	木畑洋一
木宮正史	小林陽太郎	坂井俊樹
佐々木史郎	上保敏	杉山晃一
藤本幸夫		

12 図書センター閉館

財団法人 日韓文化交流基金は、事務所附設の図書センターを、2011年6月30日(木)をもって閉館いたします。これは、今秋に予定している当基金事務所の縮小・移転に伴う措置によるもので、当基金といたしましては図書センターの存続を強く願い、力を尽くしましたが、財政状況厳しき折り断念せざるを得ませんでした。これまで図書センターをご利用くださいました皆さま

におかれては、ご期待に沿えず誠に申し訳なく存じますが、どうかご理解賜りますようお願い申し上げます。平成7年の開設以来、永きにわたりご利用いただき、温かいご支援を賜りましたことに、深く御礼申し上げます。ありがとうございました。